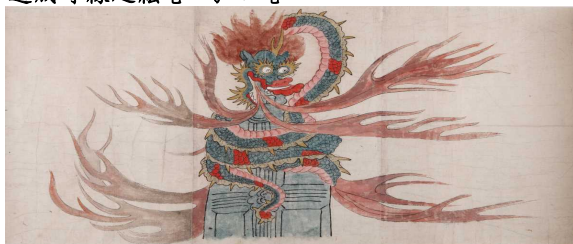


貴重図書展示「秋の貴重書名品展」

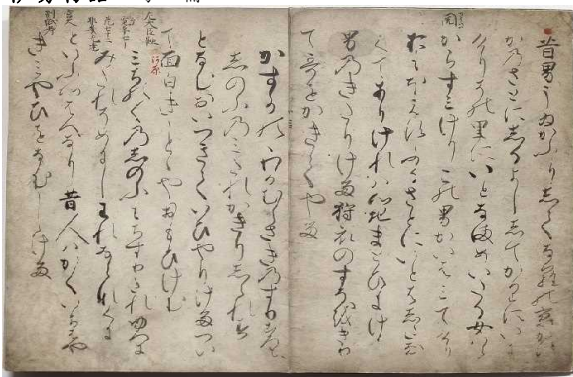
期間：2022年10月5日（水）～12月28日（水）
 場所：中百舌鳥図書館1階貴重図書展示ケース

どうじょうじえんぎえまき
 道成寺縁起絵巻 写 二巻



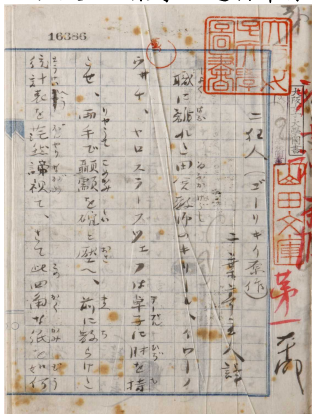
道成寺所蔵本を江戸時代に入って土佐派の画家が忠実に模写したもの。模本であるが、かなりの出来栄で、あるいは『考古画譜』が言う桑名松平家の模本であるかも知れない。

いせものがたり
 伊勢物語 写一冊



奥に兼好法師の筆跡かとする烏丸光広の識語がある。兼好の真跡ではないが、同時代（十四世紀前半）の書写とみてよい。本文は定家本と少異がある程度だが、定家一門と対立する清輔流の書き入れがあるのが注目される。

にきょうじん
 二狂人 二葉亭四迷自筆原稿 五〇枚



『新小説』明治四十年（一九〇七）三月号に掲載された、ゴリキ原作、四迷訳『二狂人』の前半部分の原稿である。用紙は松屋製四〇〇字詰め、署名は「二葉亭主人」とある。こなれた訳文をめざす推敲のあとが随所に見られる。

きよまばいばんづけ
 京芝居番附 刊 一冊



明和元年（一七六四）十一月京北側芝居上演から、寛政三年（一七九一）七月京北西側芝居上演までの、京番附五十枚。空白の多い近世中期の京歌舞伎の興行を知る新資料を多数

やり こんざ かさねかたがら
鍵の権三重帷子 刊一冊



近松門左衛門の世話物浄瑠璃。七行四十九丁本。現在六種の正本が知られているが、そのうちの初版と考えられる。

さぬきのこくしょうどしまえず
讃岐国小豆島絵図 一鋪
天保十四年（一八四三）以降

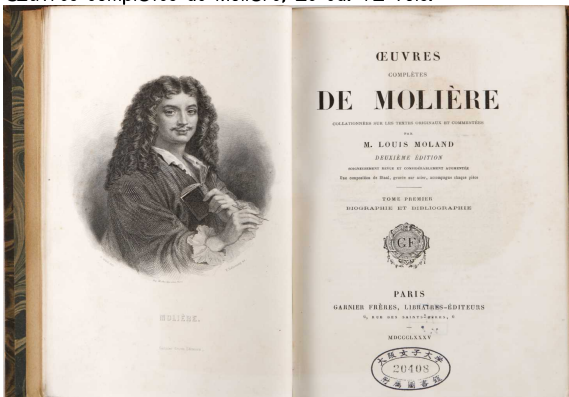


「塩飽屋文書」の一史料である。「塩飽屋文書」には美作国津山藩(岡山県津山市)の大坂蔵屋敷関係文書が含まれているが、天保九年(一八三八)に島西部の六か村(池田・土庄・湊崎・上庄・肥土山・小海)が津山藩の領地となっていることから、この絵図が残されていたのであろう。天保十四年に設置されたという陣屋が記されていることから、それ以降に作成されたものと考えられる。

すころく
ウイルソン氏リードル双伍呂久 一枚
整版多色刷 明治十八年（一八八五）
岡本光沢 岡本信関・松斎吟光画



Œuvres complètes de Molière, 2e ed. 12 vols.



十九世紀の碩学ルイ・モラン校訂のモリエール全集第二版は初版の七巻の全集を増補し更にモリエールの伝記を附加した名版。特にモランの書いたこの伝記は当時の書付けの複写を挿入した実証的労作で今日でもその権威と価値を失わない。